

朝鮮語会話モジュールと CEFR の関連づけの試み

藤原 愛

(東京外国语大学大学院博士後期課程)

はじめに

本稿は TUFS 言語モジュールの一環として開発された会話モジュールの朝鮮語会話モジュールで取り扱われている会話文に対し、CEFR (Common European Framework of Reference) の枠組みを利用したレベル分けを試みるものである。会話モジュール開発は、言語の持つ「機能」に焦点を当てて行われた経緯があり、現在公開されている会話モジュールの会話文には、学習者がこの教材に取り組む際の指標となるレベル分けがなされていないのが現状である。CEFR の基準と照らし合わせ、朝鮮語会話モジュールで取り扱われている会話文のレベルを分析していくことで、この CEFR という枠組みの朝鮮語会話モジュールへの応用可能性について考察していく。

1. 朝鮮語会話モジュールの概要

TUFS 言語モジュールの会話モジュールは、多言語汎用シラバスの採用を目指していること、また文法を扱う教材が別個に準備されることなどを前提としているため、言語の持つ「機能」に注目し作成されている（結城、2004a）。朝鮮語会話モジュールも例外ではなく、この 40 の機能を軸として作成されている。10 文前後のダイアログをひとまとまりとし、その中にはそれぞれの機能を実現しているキーセンテンスが含まれている。キーセンテンスに設定されている文は総例文数 484 個のうち 82 個となっている。内容自体は、大学生を対象とした教材として会話モジュールが開発された経緯から、場面設定が大学構内となっている会話や、勉強（授業）に関する会話など、実際に大学生が日常生活で経験する状況を想定した会話文であることが特徴的である。

2. レベル分けの試み

2.1 CEFR の枠組みの再考察

朝鮮語会話モジュールのレベル分けを CEFR の枠組みで考えていく場合、いくつか前提として設けておかなければならない規準がある。CEFR の設定している「共通参照レベル」をそのまま会話モジュールに応用することは、学習環境や目標言語の違いという理由から、難しいと考えられるためである。Council of Europe (2001) においても、CEF が共通の参照レベルを決めたとしても、それは異なる教育文化や異なる担当者がどのように独自のレベルやモジュールの体系を構築し、記述するかを決して制限するものではないとして

いることから、この共通参照レベルを規準にした新たなレベル設定の必要性がうかがえる。

CEFR では、「基礎段階の言語使用者」にあたる A1, A2, 「自立した言語使用者」にあたる B1, B2, そして「熟達した言語使用者」とされる C1, C2 の 6 段階のレベルを設定している。この尺度は A1（言葉の使い始めの中で最も低いレベル）から C2（母語話者かそれに近いレベル）と幅が広いため、まずは朝鮮語会話モジュールが、この 6 段階のうちどのレベルに関わってくるのかを明らかにする必要がある。先にも述べたように、会話モジュールが対象とする学習者は大学生であるが、その言語を初めて学ぶ学習者でも取り組める内容となっているため、他の言語の会話モジュールを分析する担当者との話し合いの結果、会話モジュールのダイアログ全体が A1, A2, B1 の 3 レベルにおさまると判断した。

会話モジュールはその名称からも分かるように、「会話」のための能力を養うための教材であることから、CEFR の共通参照レベルのうち、「話すこと」、「会話」、「話し言葉の質的側面」を特に参照した。また Little and Simpson (2004) による CEFR の枠組みに基づいたレベル分けが、今回の調査と同じく A1, A2, B1 に限定したものであったことから、会話モジュールと関連のある Spoken Production の定義部分を参考にした。

2.2 朝鮮語会話モジュールのレベル分け

朝鮮語会話モジュールのレベル分けの問題点は、そもそも「機能」を中心開発されたため、レベル分けを想定した教材ではないということである。さらに、結城 (2004b) が指摘するように、機能シラバスでは様々な文法構造を持った文がひとつの機能に混在するため混乱を招く可能性があることや、言語系統などの違いが現れる文法事項や品詞事項を「共通参照レベル」で捉えていくことも困難である。また、扱われている構文の難易度とそこに含まれる語彙の難易度が必ずしも一致していないこともレベル分けを困難にしている一因となっている。

言語習得または言語学習という側面から朝鮮語学習項目の難易度を考えた場合、既存の教科書で取り扱われている学習項目の順序がそのまま難易度となっているのではないかと考えられる。つまり教科書の始めのほうで扱われる項目はより易しく、だんだん難しい学習項目へと進んでいくというものである。一方で、現行の教科書の連続的な学習項目の提示では、どこからどこまでが入門、初級、中級なのかという区別、CEFR でいえば A1, A2, B1 なのかといった判断ができないという問題もある。そこで、レベル分けは『至福の朝鮮語』(野間, 2000) 及び『ぷち韓国語』(野間他, 2004) の学習単元配列に沿うこととし、さらにそれらを A1, A2, B1 に分類する際には共通参照レベルを参考にすることで、朝鮮語会話モジュールの分析を行う。

朝鮮語会話モジュールのレベル分けをする際に念頭に置いておくべきことが、CEFR の各レベル記述から読みとれる。例えば共通参照レベルの「話すこと：表現」では A1 で「簡単な語句や文を使って表現できる」という記述が見られ、A2 では「簡単な言葉で一連の語句や文を使って説明できる」となっている。また同様に「話し言葉の質的側面：使用領域の幅」では、A1 で「基本的な語や言い回しが使える」とあり、A2 では「定式表現、基本的な構文を使って」となっており、明らかに上位レベルの方が長い文を生成する能力を

必要とする点である。また、「話すこと：表現」の A2 では会話の内容が「家族、周囲の人々、居住条件、学歴、職歴について」と具体的な内容となっているが、上位レベルの B1 では「夢や希望、野心。意見や計画に対する理由や説明、本や映画のあらすじ、感想、考え」というように、レベルが上がればより抽象的な内容に対して説明的な文を生成する能力が必要となることがわかる。このことから、長い文を生成する際に必要となる接続形や、より詳しく事象を説明できる副詞や形容詞といった修飾語の使用が、CEFR を規準としたレベル分けに深く関わってくると考えられる。このため、文型（言語構造）という観点からも会話モジュールの各文を分析していく必要がある。

3. レベル分析

3.1 分析方法

朝鮮語会話モジュールのレベル分けに関して、以下の手順で分析を行った。

(1) 会話モジュールにおける A1, A2, B1 のレベルを定義

CEFR の A1, A2, B1 を規準に、会話モジュールのためのレベルを、他の言語の会話モジュール分析の担当者たちと話し合い定義した。

(2) キーセンテンスの抽出

朝鮮語会話モジュールのダイアログからキーセンテンスを抜き出し、文型の分析及び教科書に準じたレベル分けを行った。用言の活用を含むキーセンテンスのレベルの分析では『至福の朝鮮語』(野間, 2000) の「用言の様々な形」(pp206-219) を参照した。

(3) CEFR を規準としたレベル分け

(1) の定義に沿って、(2) で扱ったキーセンテンスを A1, A2, B2 の各レベルに分類した。

3.2 分析対象

レベル分析の対象は、朝鮮語会話モジュール作成者が各機能を実現しているキーセンテンスとして割り当てた文 80 個とする。ただし、この段階ではダイアログからキーセンテンス部分を抜き出した際に、機能を実現している文への応答文もキーセンテンスとして割り当てられている。

3.3 分析結果

3.3.1 レベル別一覧（資料）について

レベル分けの結果は、資料「CEFR を規準とした朝鮮語会話モジュールにおけるキーセンテンスレベル別一覧」に示した。

CEFR の A1, A2, B1 を規準とした会話モジュールのためのレベルに関しては、他の言語の会話モジュールを分析担当者との話し合いの結果を、各レベルの表の最初に記した。朝鮮語会話モジュールに当てはまる能力記述は太字で、一部当てはまる能力記述には下線を付した。

表の「機能テーマ」の欄には、会話モジュールで定義されている機能を実現しているキーセンテンスのみに、その機能を表示してある。機能を実現している文に対する応答文や、

前後の文脈を見なければ機能を実現していると判断するのが難しい文の場合は「機能テーマ」の部分を空欄とした。

「文型」の欄の N は名詞を, I, II, III は用言の活用形を示す。また定形表現とは Council of Europe (2001) の定義により「いくつかの単語から成り, ひとまとまりに学習される表現」とした。そのため, 文構造を解析すれば高度な文法項目を含んでいる表現であっても, 日常的に使う短い表現であれば定形表現として分類した。

3.3.2 レベル別結果

- レベル A1

朝鮮語会話モジュールでは, A1 に分類されたキーセンテンスは 26 個で, そのほとんどが定形表現となっている。用言の活用を含んでいる文もあるが, 機能を実現している表現として覚えてしまえば, 用言の活用の知識がなくとも使用可能な文はこのレベルに分類した(例:N 드릴까요? 「N 差し上げましょうか?」)。また, そのまま使える表現の他に, 名詞(N)を挿入する形の文も 9 個あり, そのうちの 5 個については母音語幹か子音語幹かにより, それにつづく語尾(助詞)が異なるものが含まれる。助詞は主語を表す 는／은 (～は)と 가／이 (～が)の二つがある。

- レベル A2

A2 に分類されたキーセンテンスは 30 個であった。特徴としては, 用言の活用のうち第 I 語基, 第 II 語基を含むものが多いことと, 名詞を挿入する形の表現に関しても A1 のそれよりは長めの文であるが挙げられる。助詞に関しては A1 での二つに加え, 를／을 (～を)や 丘 (～も)など, その種類が増えていることからも, A1 よりも表現の幅が広がっていることがわかる。

- レベル B1

B1 に分類されたキーセンテンスは 24 個あり, 特徴としては用言の活用のうち第 III 語基を含む表現が多いこと, また接続形や連体形, 副詞が A2 に比べて多用されていることが挙げられる。接続形が使われているキーセンテンスはより長い文となっており, 連体形や副詞の使用により, より詳細な表現が可能となっている。

4. 考察

定形表現がほとんどを占めた A1 のキーセンテンスに関して, CEFR の規準と, 実際の朝鮮語会話モジュールの機能とを照らし合わせてみると, 「基本的な挨拶をする」, 「いとまごいの表現を使う」, 「元気かどうか聞く」, 「時部や他人を紹介する」は含まれているが, 「どこに住んでいるか」, 「数, 量, 価格, 時間を扱う」に関していえば, 「どこ」という表現及び「価格, 時間」をたずねる表現は含まれるもの, 結果として CEFR の能力記述を部分的にしか満たしていないことが分かる。その他のキーセンテンスは「特定な具体的な状況に関して基本的な言い回しのレパートリーを持つ」に分類されると考えられる。「直接必要のある分野や身近な話題に関して簡単な意見をいう」にあたる表現は見受けられない。A1 のキーセンテンスの傾向は, 旅行者が手にするガイドブックに「これだけは覚えてお

こう」と掲載されるような、ごく初步的な表現がほとんどであると考えられる。

A2 では第Ⅰ語基、第Ⅱ語基を含む表現が多かったが、これは用言の活用において、これらが第Ⅲ語基より易しいと考え A2 に分類したためである。CEFR の規準と対照してみると「指示を要求する・与える」、「好きなもの嫌いなものを説明する」、「社交的な短いやり取りを交わす」などにあたるキーセンテンスはあるが、言語行為の場所が特定されている「店、郵便局、銀行で簡単な取引をする」や「旅行や公共の移動手段、バス・鉄道・タクシーなどについての簡単な情報を得る」といった能力記述に当てはまるキーセンテンスはない。これは会話モジュールが「機能」を既定しているが「場所」について言及していないため CEFR の規準と不一致が生じたと考えられる。

今回の 3 つのレベルの中では最も上位レベルに当たる B1 では、第Ⅲ語基を含む表現が多いが、これは用言の活用のうち学習者が最も困難と感じる活用であると考えられるため、難しい表現と判断した。A1 と A2 でも文末に第Ⅲ語基を含むキーセンテンスはあるが定形表現として覚えられる範囲内であるのに対し、B1 では第Ⅲ語基の作り方を知らないと使うことができない語尾が中心となっている。また CEFR の規準では、A1, A2, B1 とレベルがあがるにつれ、生成できる文の長さも長くなり、より詳しい説明をする能力が求められると指摘したが、B1 にはそれを可能にするための接続形や、連体形や副詞、形容詞といった修飾語を含んだキーセンテンスが分類されている。CEFR の能力記述を見てみると、ほとんどの記述が部分的にしか当てはまっておらず、全く当てはまらない記述も少なくない。その理由として考えられるのは、レベルが上がれば表現できる内容も多岐に渡るためそれに応じて記述文も包括的になってくるが、分析対象としたキーセンテンスが少なかったことから、結果としてあてはまらない記述文が多くなってしまったということが考えられる。

80 個のキーセンテンスを A1, A2, B1 の 3 つのレベルに分類したが、今回のレベル分けは語彙の難易度は考えずに行った。その理由は以下の通りである：1) CEFR での使用語彙領域の例示的尺度が抽象的であるため、2) 語彙の難易度は提示順序（導入順序）に左右されると考えられ、絶対的な難易度を規定することが難しいため、3) そもそも会話モジュールが語彙を網羅的に扱っているわけではないため。

また、B1 の「招待する」の機能で 민호 오빠도 오실 수 있으세요? (ミノさんも来られますか?) という表現があるが、ここで出てくる [-ㄹ 수 있다] の部分は「---することができる。---しうる。」という可能性の表現として教科書で扱われるが、今回の分析では機能はそのまま「招待する」として取り扱った。

5. まとめ

会話モジュールという「機能」を前提に作成された教材を、CEFR という能力記述の枠組みで捉え直しレベル分けすることを試みたが、「さよならを言う」、「挨拶する」の機能のように、キーセンテンスが全て A1 に当てはまるものもある一方で、同じ機能であってもレベルの異なるキーセンテンスを含んでいる場合もあることから、機能とレベルは必ずしも一致していないことが分かる。同じ機能を実現するにも多種多様な表現が可能であり、それらを CEFR という規準で捉え直しレベル分けをする際には、やはり文型や頻度、使用

語彙の難易度について言及せざるを得ない感がある。また今回のレベル分けでは、キーセンテンスに含まれる文型が、既存の朝鮮語の教材で、どの順番で提示されるかに依存するところも大きかった。一般的に教材で取り扱う内容は易しい項目から難しい項目へという流れはあるが、語彙の難易度で指摘したように、何をいつどのように導入するかによって、学習者が学習項目に対して感じる難易度が変化することもあるであろうと考えられることから、CEFR のレベルと教科書での提示順序が一致しているかどうかということは明言できない。

今回のレベル分けで A1 に関しては、ある程度 CEFR のレベルに準じた一貫性のあるものとなっているが、A2 と B1 の境界線をどう引くかが困難であった。その理由として考えられるのは、やはり「能力記述」の持つ曖昧さの為ではないか。Council of Europe (2001) でも指摘されているように、示された能力記述文間のギャップについてはどう対処すべきか考慮する必要があると考えられる。能力記述文に具体的な実例を加えたり、記述文自体をより詳細にすることによりこのギャップが埋められると考えられるかもしれないが、今回のようにひとつの枠組みの体系を多言語で共有することを考えると、あまり現実的ではない。母語と目標言語を既定したレベル分けであれば、ここでいう曖昧さは軽減されると考えられるが、CEFR の目指すところは言語によらない共通枠組みを確立することであるため、今後もこのレベル規準についてのさらなる議論の余地がある。またそれと同時に、今回は 80 個のキーセンテンスの分析であり、CEFR の規準と対照するには数が少ないのでないかと思われるため、朝鮮語会話モジュールの他の文に対しての、さらなる分析が望まれる。

参考文献

- Council of Europe. (吉島茂訳編) . 2001. 『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』, 朝日出版社, (原題 Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment. 2001)
- Little, D. and B. L. Simpson. 2004. Using the CEF to develop an ESL curriculum for newcomer pupils in Irish primary schools. In K. Morrow (ed.) , Insights from the Common European Framework, pp.91-108. Oxford: Oxford University Press.
- 野間秀樹 (2000) 『至福の朝鮮語』朝日出版社
- 野間秀樹、村田寛、金珍娥 (2004) 『ぶち韓国語』朝日出版社
- 結城健太郎 (2004a) 「D モジュールにおける機能 40 とその分類枠組み」『言語情報学研究報告』, No.1, 東京外国语大学大学院. pp.103-114
- (2004b) 「D モジュール開発のための場面シラバスと機能シラバスに関する基礎調査」『言語情報学研究報告』, No.1, 東京外国语大学大学院. pp.75-82
- 和田朋子 (2004) 「TUFS 言語能力記述モデル開発のための試み: Common European Framework (of Reference for Language) の考察」『言語情報学研究報告』, No.5, 東

京外国語大学大学院. pp.89-102

和田朋子, 長沼君主, 田中敦英 (2004) 「言語能力の発達段階の記述について」『言語情報学研究報告』, No.2, 東京外国語大学大学院. pp.95-110.

資料：CEFR を規準とした朝鮮語会話モジュールにおけるキーセンテンスレベル別一覧

レベル A1		
CEF のレベル A1 判定基準として記述されている能力記述文から一部抜粋〔言語行為の目的、機能、話題、場所、語彙等に関連する事項〕		
機能テーマ	キーセンテンス（日本語訳）	文型（言語構造）
挨拶する	어! 김지영 씨, 안녕하십니까? (あ！ キム ジヨンさん、 こんにちは。)	定型表現
挨拶する	안녕하세요? (こんにちは。)	定型表現
挨拶する	잘 지내세요? (元気ですか？)	定型表現
感謝する	고맙습니다. (ありがとうございます。)	定型表現
注意をひく	여기요! (すみません！)	定型表現
自己紹介する	저는 최영숙이라고 합니다. (私はチェ ヨンウクと申します。)	저는 N (이) 라고 합니다.
自己紹介する	저는 야마다입니다. (私は山田です。)	저는 N 입니다.
謝る	미안해요, 영완 씨. (ごめんなさい、 ヨンワンさん。)	定型表現
人にものをあげる	하나 드릴까요? (一つ差し上げましょうか?)	N 드릴까요?
さよならを言う	안녕히 계세요. (さようなら。)	定型表現
さよならを言う	네, 안녕히 가세요. (ええ, さようなら。)	定型表現
金額についてたずねる	이 옷은 얼마예요? (この服はいくらですか?)	N 는 / 은 얼마예요?
金額についてたずねる	그럼 이 구두는 얼마예요? (じゃあ、 この靴はいくらですか?)	N 는 / 은 얼마예요?
時間についてたずねる	근데 지금 몇 시예요? (ところで今、 何時ですか?)	定型表現

場所についてたずねる	어디 있어요? (どこにありますか)	定型表現
場所についてたずねる	아, 그런데 화장실은 어디에요? (あ, ところでトイレはどこですか?)	N 는 / 은 어디에요?
特徴についてたずねる	맛이 어때요? (味はどうですか?)	N 가/이 어때요?
状況についてたずねる	잘 지냈어요? (元気でいましたか?)	定型表現
提案する	칼국수 어때요? (手打ちうどん, どうですか?)	N 어때요?
要求する	아저씨, 좀 깎아 주세요. (おじさん, ちょっとまけて下さい。)	定型表現
人を紹介する	박진철 씨, 이쪽은 학교 친구 사토 씨예요. (パク ジンチョルさん, こちらは学校の 友人 の佐藤さんです。)	이쪽은 N예요
	처음 뵙겠습니다. (はじめまして。)	定型表現
	그래요? (そうですか?)	定型表現
	아, 그래세요? (あ, そうですか?)	定型表現
	네, 그래요. (ええ, そうです。)	定型表現
	네, 그렇죠. (ええ, そうですよ。)	定型表現

レベル A2

CEF のレベル A2 判定規準として記述されている能力記述文から一部抜粋〔言語行為の目的, 機能, 話題, 場所, 語彙等に関連する事項〕

指示を要求する・与える / 価格をたずねる / 買い物する / 食事の注文をする
招待する / 申し出をする, 受ける / 機嫌, 調子を聞く /
事物や所持品について短い意見を言ったり, 比較したりする
社交的な短いやり取りを交わす / 仕事中や自由時間にすることをたずねる
何をすべきか, どこに行くかを話して会う約束をする
店, 郵便局, 銀行で簡単な取引をする
旅行や公共の移動手段, バス・鉄道・タクシーなどについての簡単な情報を得る
簡単な言葉でどのように感じているかを表現する
毎日の周りの事柄について幅広い説明をする
過去の行動や個人的な体験を話す / 好きなもの嫌いなものを説明する
友人との議論で他の人の意見に賛成や反対をする

機能テーマ	キーセンテンス（日本語訳）	文型（言語構造）
人にものをあげる	집에 많이 있으니까 하나 줄게요. (家にたくさんあるから、一つあげますよ。)	II -니까 N 줄게요.
予定を言う	도서관에 갈 예정인데, 왜요? (図書館に行くつもりですが、どうしてですか?)	II -근 예정인데
予定を言う	그럼 나도 같이 갈게요. (じゃあ私もいっしょに行きますよ。)	II -근 게요.
程度についてたずねる	요즘도 자주 하세요? (このごろもよくなさるんですか?)	자주 II -세요?
程度についてたずねる	한 달에 몇 번 정도 야구장에 가는데요? (ひと月に何回ぐらい野球場に行きますか?)	몇 名数詞 정도 I -는데요?
時間についてたずねる	버스 막차가 몇 신데요? (終バスは何時なんですか?)	N 가 / 이 몇 신데요?
数字についてたずねる	그런데 연구회에는 몇 명 정도 올 것 같애요? (ところで研究会には何人ぐらい来そうですか?)	몇 名数詞 정도 II -근 것 같애요?
手段についてたずねる	여기 학생 식당은 어떻게 이용하는 거예요? (ここ的学生食堂はどのように利用するんですか?)	N는 / 은 어떻게 I -는 거예요?
手段についてたずねる	어떻게 쓰는데요? (どう使うんですか?)	어떻게 I -는데요?
能力についてたずねる	일본어 할 줄 알아요? (日本語ができるんですか?)	N 할 줄 알아요?
能力についてたずねる	스즈키 씨는 외국어 좀 할 줄 알아요? (鈴木さんは外国語ができますか?)	N 좀 할 줄 알아요?
好きなものについて述べる	예, 저는 과일보다 야채를 더 좋아해요. (ええ、私は果物より野菜のほうが好きです。)	N보다 N를 / 을 더 좋아해요.
好きな行動について述べる	카페에서 커피 마시면서 책 읽는 걸 좋아해요. (カフェでコーヒーを飲みながら本を読むのが好きです。)	II -면서 I -는 걸 좋아해요.
状況についてたずねる	그 동안 어떻게 지냈어요? (これまでどうしてたんですか?)	定形表現
条件をつける	만약에 너무 늦어지면 어떻게 하죠? (もしすごく遅くなったらどうしましょうか?)	II -면 어떻게 하죠?
比べる	서울에서 제일 큰 서점이 어디에요? (ソウルで一番大きな本屋はどこですか。)	제일 II - N가/이 질문어에요?

比べる	인터넷점은 어디가 제일 유명한데요? (인터넷書店はどこが一番有名ですか?)	N는 / 은 疑問詞가 제일 Ⅱ-ㄴ 데요?
提案する	같이 식사할까요? (一緒に食事しましょうか?)	같이 Ⅱ-夔까요?
理由を述べる	감기 때문에 못 왔어요. (風邪のせいで来られなかったんです。)	N 때문에 못 Ⅲ 요.
例をあげる	예를 들어서 웃이나 향수나… 아니면 반지를 주는 사람도 있어요. (例えば服とか香水とか… あるいは指輪をあげ る人もいます。)	예를 들어서 N (이) 나 N (이) 나 … 아니면 N 도 있어요.
例をあげる	머그컵이라든가 펜 같은 거요. (マグカップだとかペンのようなものです。)	N (이) 라든가 N 같은 거요.
しないでくれと言う	저 기다리지 마세요. (私を待たないで下さい。)	I -지 마세요.
要求する	다음에도 꼭 살 테니까 조금만 깎아 주세요. (次も必ず買いますから、少しだけまけて下さい よ。)	II -ㄹ 테니까 Ⅲ 주세요.
希望を述べる	전 대학원에 가고 싶어요. (私は大学院に行きたいですね。)	I -고 싶어요.
指示する	아, 선배, 그건 책상 위에 놔 주세요. (あ、先輩。それは机の上に置いて下さい。)	Ⅲ 주세요.
指示する	음… 왼쪽에 좀 놔 주세요. (うーん…左にちょっと置いてください。)	Ⅲ 주세요
指示する	아뇨, 저 책장에 좀 끌어 주세요. (いえ、あの本棚に入れてください。)	Ⅲ 주세요
	영어는 조금 해요. (英語は少しできます。)	N 는 / 은 조금 해요.
	실은 제가 운동을 싫어하거든요. (実は私、スポーツが嫌いなんですよ。)	N를 / 을 싫어하거든요.
	아뇨, 이메일로 보내세요. (いえ、eメールで送って下さい。)	N로 Ⅱ-세요.

レベル B1

CEF のレベル B1 判定規準として記述されている能力記述文から一部抜粋〔言語行為の目的、機能、話題、場所、語彙等に関連する事項〕

経験、できごと、夢、希望、野心を説明する / 意見や計画の理由、説明を短く述べる
日常生活での問題に柔軟に対応する

驚き、幸せ、悲しみ、興味、無関心などの感情を表現する / 会話や議論を続ける
友人とのくだけた議論で個人的な見方や意見を示したり要求したりする

他の人の見解に簡単なコメントを述べる / 反品する / 苦情を言う

詳細な指示を与えながらやり方を説明する / 信念、意見、賛成、反対を丁寧に表現する

日常生活範囲内の殆どの話題、家族、趣味、仕事、旅行、時事など述べたいことを述べられる語彙を持つ

機能テーマ	キーセンテンス	文型（言語構造）
経験についてたずねる	사도 씨는 한국에 가 본 적 있어요? (佐藤さんは韓国に行ったことがありますか?)	II-ㄴ 적 있어요?
経験についてたずねる	음식은 어떤 걸 먹어 봤어요? (食べ物はどんなものを食べましたか?)	어떤 걸 III 봤어요?
経験についてたずねる	갈비도 먹어 봤어요? (カルビも食べてみましたか?)	III 봤어요?
予定を言う	내일 백화점에서 세일을 하는데 같이 갈까 해서요. (明日デパートでセールをするんですけど、一緒に行こうかと思って。)	I-는데 II-ㄹ까 해서요.
予定を言う	책을 반납하러 가는 것뿐이었어요. (本を返しに行くだけだったんです。)	N를/을 II-려 I-는 것뿐이었어요.
意見を述べる	솔직히 얘기하는 게 낫겠죠. (正直に話したほうがいいですよ。)	I-는 게 낫겠죠.
意見を述べる	그럴 땐 솔직하게 고백하고 사과하는 게 좋아요. (そんなときは正直に告白して謝るのがいいですよ。)	I-는 게 좋아요.

순서について述べる	먼저 금액 버튼을 누르고 그 다음에 돈을 넣는 거예요. (まず金額ボタンを押して、それからお金を入るんです。)	먼저 I-고 그 다음에 I-는 거예요.
비교하는 比べる	그냥 서점보다 인터넷서점에서 사는 게 더 좋을 것 같은데… (普通の本屋よりインターネット書店で買った方がいいと思いますけど…)	N보다 I-는 게 더 좋을 것 같은데
비교하는 比べる	‘알라딘’이라는 사이트가 가장 유명한데, 저는 ‘아마존’을 주로 이용하고 있어요. (「アラジン」というサイトが一番有名ですけど、私は「アマゾン」を主に利用しています。)	N가／이 가장 II-는 데, 저는 N를／을 주로 I-고 있어요.
이유를 설명하는 lý do를 설명하는	약을 먹었더니 금방 나았어요. (薬を飲んだらすぐ治りました。)	III-ㅆ더니
의존하는 rely on하는	거기 가서 커피하고 케이크 하나만 사다 줄래요? (そこに行ってコーヒーとケーキを一つ買って来てくれますか?)	III-다 줄래요?
妥協하는 compromise하는	네, 남은 부분은 다음 주에 제출해도 돼요. (ええ、残った部分は来週提出してもいいですよ。)	III-도 돼요.
허락을 청하는 寻求许可하는	제가 좀 봐도 돼요? (ちょっと見てもいいですか?)	좀 III-도 돼요?
허락을 청하는 寻求许可하는	이름 물어 봐도 돼요? (名前を聞いてもいいですか?)	III 봐도 돼요?
해야 하는 상황 해야 하는 상황	그럼 요리를 직접 자기 자리로 가져가야 돼요? (では料理を直接自分の席に持って行かなくてはいけませんか?)	III-야 돼요?
해야 하는 상황 해야 하는 상황	그럼 먹고 나서도 직접 그릇을 카운터에 반납해야 되는 거예요? (じゃ食べてからも直接食器をカウンターに返さなければいけないんですか?)	III-야 되는 거예요?

指示する	우선, 침대 옆에 봐 주시겠어요? (とりあえず、ベッドの横に置いてもらえますか?)	III 주시겠어요?
招待する	그래서 다음 주 일요일에 집들이를 하려고 하는데 민호 오빠도 오실 수 있으세요? (それで来週の日曜日に引越しパーティをしようと思っているんですが、ミノさんも来られですか?)	N를 / 을 II-려고 하는데 II-ㄹ 수 있으세요?
助言する	그럴 땐 오히려 몸을 움직이는 게 좋아요. (そんな時はかえって体を動かすのがいいですよ.)	그럴 땐 오히려 I-는 게 좋아요.
助言する	그런 소리 하지 말고 먼저 방 청소부터 해 보세요. (そんなこと言わないで、まず部屋掃除からやってみて下さい)	I-지 말고 먼저 N부터 해 보세요.
希望を述べる	아직 확실하진 않은데요, 문학을 공부하고 싶어요. (まだはっきりしていないんですが、文学が勉強したいです.)	아직 확실하진 않은데요, I-고 싶어요.
	일한사전인데요, ‘아리랑출판사’에서 새로 나온 거 있어요? (日韓辞典なんんですけど、「アリラン出版社」から新しく出たもの、ありますか?)	N II-ㄴ데요, N에서 새로 II-ㄴ 거 있어요?
	다음 주 모임 말인데요, 회원들에게 편지로 알려 주면 될까요? (来週の集まりのことなんですが、会員に手紙でお知らせしたらいいでしょうか?)	N 말인데요, III 주면 될까요?